

0年生

第5期OB 池谷 真剛

「この会社、辞めようよ...」

同じ企業に内定していた松川（第5期）が、去年の冬、いつもの調子で私にこうささやいたのです。彼が、すでに社会人よろしく“この会社”と言っていることから、松川と私の就職に対する間一髪度合いを感じ取っていただければ幸いです。

私は去年、大学生生活も残り3カ月というところで、内定辞退、留年、大学院受験という選択をしました。つまり今年、大学5年生ということです。しかし、小野先生のご厚意によって、むしろ大学院修士課程0年生として、有意義な1年間を過ごすことができました。

今年を振り返る時、真っ先に思い浮かぶのは学会デビューの事です。4月、アラブ首長国連邦のドバイで開かれた国際学会に、共同研究者の1人である千葉（第5期）と共に参加しました。初の学会発表が海外ということで苦勞もありましたが、その分得られる充実感は何物にも代えがたいものでした。そして、今後も努力次第でこのような機会を得られる道を選んだことを、心からよかった...と再確認しました。

さて、入試もなんとか終了し、引き続き小野先生の下で研究活動を行えることに、私はいま最上の喜びを感じています。しかし同時に、これほど恵まれた環境において何も為せないとするならば、それは自分の責任以外の何物でもないとも感じています。松川のささやきを本当に活かすためにも、文字通り、精進を重ねていかなければなりません。

最後になりますが、来年度から、小野ゼミの大学院生に、海外からの留学生が加わります。彼らとも切磋琢磨することによって、小野ゼミの発展に多少なりとも貢献を為したいと思う、今日この頃です。



学会発表直前に偶然出会った台湾の先生から訓示を受ける著者（中央）と共同研究者



案ずるより産むがやすし。英語でのプレゼンテーションを颯爽とこなす著者（中央）と共同研究者